

第 23 回宮坂英弑記念尖石縄文文化賞

受賞者 高田和徳氏

尖石縄文文化賞条例にもとづく同賞選考委員会は、今井敦茅野市長の諮問を受け、8月26日に開催された。今回、選考・審査の対象となったのは、個人計9人である。

候補者の内訳は、40歳代から70歳代におよび、研究歴や所属機関は多彩で、「受賞の対象となる研究及び活動の業績」についても、宮坂英弑が目指した縄文時代のすぐれた研究と活動を示すものであった。このことは、本賞が広く学界等一般に周知された結果をよく示すものである。

こうしたすぐれた候補者を得て、選考委員会において慎重な審議を行い、第23回尖石縄文文化賞の受賞者として、高田和徳氏（岩手県）を全会一致で推薦することに決定した。

同氏は、御所野遺跡の史跡指定と保存にも取り組み、史跡公園として整備した。その史跡公園では、北日本で最も豊かな縄文的植生を再現し、周辺の里山を史跡として追加指定しながら、自然環境と一体化した形で縄文時代中期後半の広大な集落を見事に復原し続けている。それらの活動は、『縄文ムラの原風景－御所野遺跡から見えてきた縄文世界－』や『縄文里山づくり－御所野縄文博物館の縄文体験－』にまとめられている。

こうした氏の精力的な研究活動が世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の登録の原動力のひとつとなったと言え、尖石遺跡の調査を通じて、縄文人の行動や社会の解明に取り組んだ宮坂英弑の業績を顕彰する宮坂英弑記念尖石縄文文化賞の趣旨に沿うものであり、まことにふさわしい受賞者である。

2022年8月26日

宮坂英弑記念尖石縄文文化賞選考委員会

委員長 小林 達雄



第23回受賞者 高田和徳氏